

医療技術の体系的な分類について（案）

1. 背景

- 診療報酬上の手術分類（Kコード）については、イノベーションの進展に伴い手術の多様化・高度化等が進む中で、一定の限界が指摘されている。一方で、臨床的な観点から、外科系学会社会保険委員会連合（外保連）により整理されている手術・手技の分類として、外保連手術試案の手術の基幹コード（STEM7）があり、平成30年度診療報酬改定においては、データ提出加算で提出を求めているデータについて、KコードにSTEM7を併記することとされた。
- 令和2年度診療報酬改定においては、DPCデータの抽出・検証等を通じて、体系的な分類方法の検討、課題の抽出、特定の診療分野における試行的な導入等について、検討することとされた。
- 令和4年度診療報酬改定に向けては、厚生労働省行政推進調査事業「公的医療保険における外科手術等の医療技術の評価及びその活用方法等に関する研究」において、一部のKコードとSTEM7の組み合わせについて、DPCデータの麻酔時間に着目した検証が行われた。

1つのKコードに対して手術部位ごとにSTEM7が分類されている整形外科領域の一部の術式において、手術部位によって麻酔時間の分布が異なっていた一方で、他の術式については麻酔時間が「540分以上」となる術式が多数存在する等の評価方法に係る課題もみられた。こうした検証結果や課題等を踏まえた上で、対象となる手術や分析に係る評価項目等について、さらに分析を進めることとされた。

2. 今後の対応について（案）

- 令和4年度診療報酬改定において、DPCデータの検証を通じて、KコードとSTEM7の対応関係に係る一定の評価結果と課題が得られたことを踏まえ、厚生労働省行政推進調査事業「リアルワールドデータ（RWD）に基づく外科手術等の高度化・多様化する医療技術の評価及びRWDの活用に関する研究」において、以下のような方針で検討を進めることとする。
 - ① 体系化の対象とする術式の選択について

- ・ 1つのKコードに対して、手術部位ごとにSTEM7が分類されている整形外科領域の一部の術式について体系化が可能と考えられたことを踏まえ、整形外科領域の同様の術式についても検証を進めるとともに、関係団体等とも連携しつつ、令和6年度診療報酬改定において検証結果に基づくKコードの体系化を検討する。

② 評価方法の検討について

- ・ DPCデータの麻酔時間を用いた現状の評価方法については一定の限界も存在することから、関係学会の保有するデータベースを補完的に利用する等、関係団体等とも連携しつつ、更なる評価方法について検討を進める。